

利府町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定支援業務委託 業者選定公募型プロポーザル審査経過及び講評

令和4年9月21日

利府町地球温暖化対策実行計画(区域施策編)策定支援業務委託
プロポーザル審査委員会 委員長 名取 仁志

本町では、自然環境を守り、持続可能で安心して暮らせるまちを、将来にわたって次世代に引き継いでいくため、町民、事業者及び町が地球温暖化対策を進めるうえでの具体的な目標や方向性を示す利府町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を策定する。

計画策定に当たっては、長期目標としての2050年カーボンニュートラルを見据え、地域における再生可能エネルギーのポテンシャル及び将来のエネルギー消費量などを踏まえた導入目標、目標を実現するための具体的施策等を検討し、地域の実情に合わせた効果的な手法が求められることから、民間事業者の専門知識を生かした支援業務を実施することとし、本業務に最も適した事業者を選定するため、公募型によるプロポーザルを実施した。

選定に当たっては、審査委員会を設置し、「利府町地球温暖化対策実行計画策定調査業務委託業者選定公募型プロポーザル実施要領（以下「実施要領」という。）」及び審査要領に基づき、審査委員会において厳正に審査を行い、契約候補者の選定に至った。

1 審査委員会委員（順不同、敬称略）

委員長 名取 仁志（利府町町民生活部長）
副委員長 鎌田 功紀（利府町企画部長）
委員 後藤 仁（利府町総務部長）
委員 鈴木 久仁子（利府町保健福祉部長）
委員 佐藤 浩幸（利府町経済産業部長）
委員 近江 信治（利府町都市開発部長）

2 公募型プロポーザルの経緯

令和4年8月22日（月） 公募型プロポーザルの公告
令和4年8月31日（水） 参加表明書の提出期限
令和4年9月1日（木） 参加資格審査結果通知
令和4年9月16日（金） 企画提案書等の提出期限
令和4年9月21日（水） プロポーザル審査(プレゼンテーション・ヒアリング)
令和4年9月26日（月） 審査結果通知

3 審査経過

審査経過は、8月31日までに参加表明書の提出があった1者について、事前に事務局において、参加資格要件を満たしていることを確認した。

その後、参加資格審査で選出した1者を対象に、令和4年9月21日にプロポーザル審査を行った。同日、審査委員会を開催し、厳正な審査による総合的な評価を行い、契約候補者を選定した。

プレゼンテーションは、公平性を確保するため事業者名を伏せ、参加表明書を提出した事業者A者から、企画提案書に基づくプレゼンテーション20分、審査委員によるヒアリング10分の合計30分で行った。

審査委員会では、課題に対する提案の支援体制・実現性・業務内容等について、審査要領に定める採点基準に基づき採点を行い、各審査員の採点の合計点の平均が、審査要領に定める基準の70点以上であったことから、A者を契約候補者として選定した。

4 審査結果

優先契約候補者 A者

株式会社 エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所

総合評価点 73.75点/100点

5 最優先契約候補者に対する講評

A者の業務実績においては、当該業務及び関連業務に係る県内外多数の地方公共団体での受託実績を有しており、経験豊富である点について高く評価された。

業務内容に関しては、調査対象や手法が明確化されており、支援体制や有効性が高いものと考えられる。

プレゼンテーションでは、設定した時間が短時間であったことから、提案者が早口で説明せざるを得ない状況に陥り、審査委員への専門用語理解のケアまでは到達しない場面が散見されたが、その後のヒアリングでは、審査委員全員からあった質疑に対し、全て即時に的確に回答し、豊富な実績を感じさせられた。

計画策定支援に関しては、本町の地域特性を理解した上での業務実施方針が明確に示されていることから、2050年ゼロカーボン実現に向けた施策について高く評価された。さらに、本計画の実現に向けた実行体制も実現可能性の高いものと判断したところである。

以上、A者（株式会社エヌ・ティ・ティ・データ経営研究所）の提案は、これまでの調査及び提案実績に基づく支援が期待できることから、本町にとって有利かつ確実な事業執行が可能と判断し、優先契約候補者として選定したものである。

なお、事業の実施に当っては、今回の企画提案書とヒアリング結果に基づいた事業執行となるよう、随時検証していくこととする。

終わりに、本業務により、省エネやリサイクル運動、森林保全が推進され、また、地域に眠っている再エネ資源の有効な利活用が進み、さらに二酸化炭素を排出している各部門の行動変化が図られるなど、ゼロカーボンの早期の実現を期待し、講評とする。